



感染症発生動向調査速報

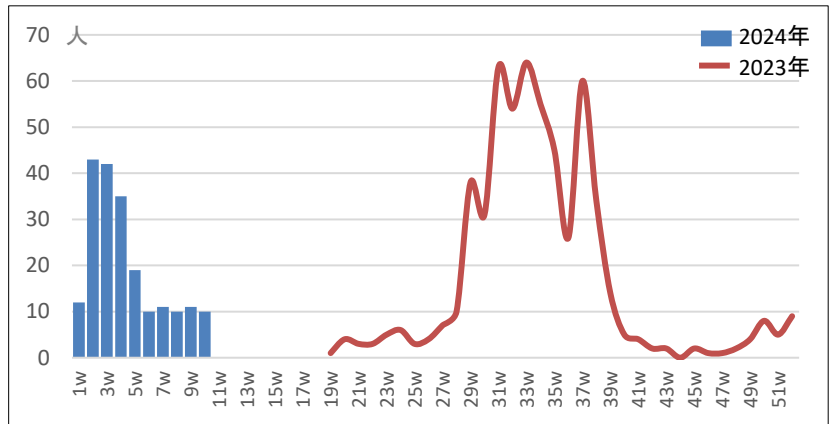
2024年 第10週 (R6.3.4 ~ R6.3.10)

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	5週	6週	7週	8週	9週	10週
インフルエンザ Covid19	インフルエンザ	10	30	10	2.5	2.25	0.25	0.25	1.5	2.25
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	4.75	2.5	2.75	2.5	2.75	2.50
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0.33	0	1.67	1.67	6	3.33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	2	2.33	3	3	5.33	2.67
	感染性胃腸炎	-	20	12	1.33	0	0	0	0	0.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	1	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	2	0	1	3	1.00

新型コロナウイルス感染症（報告数）

年齢	6w	7w	8w	9w	10w
～9歳	2	1	3	1	2
10～19歳	0	1	0	3	1
20～29歳	1	1	0	1	0
30～39歳	1	0	1	1	1
40～49歳	1	1	1	2	1
50～59歳	0	1	2	0	1
60～69歳	1	2	1	1	0
70～79歳	3	2	0	1	0
80歳～	1	2	2	1	4
合計	10	11	10	11	10



【通信欄】

【咽頭結膜熱(プール熱)】 五島市 警報 疫学

本疾患の原因であるアデノウイルスは、特に季節特異性が少なく年間を通じて分離される。しかし、疾患としての咽頭結膜熱は通常夏期に地域全体で流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成する。本邦の感染症発生動向調査からみると、過去は夏期に流行の山がみられ、数年おきに流行規模が大小していたが、2003年から冬季にも流行のピークが明確にみられるようになった。

臨床症状

発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂を訴え、3～5日間程度持続する。眼症状は一般的に片方から始まり、その後他方にも出現する。結膜の炎症は下眼瞼結膜に強く、上眼瞼結膜には弱いとされる。眼に永続的な障害を残すことは通常はない。また、頸部特に後頸部のリンパ節の腫脹と圧痛を認めることがある。潜伏期は5～7日とされている。ただし、生後14日以内の新生児に感染した場合は全身性感染を起こしやすいことが報告され、重症化する場合があることが報告されている。

治療・予防

特異的治療法はなく、対症療法が中心となる。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要になることもある。予防としては、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することなどである。